

1 学校運営の中期目標

現状と課題

鳴野小学校の子どもたちは、優しく素直な子どもが多いが、積極性にやや欠け、受動的な子どもが多いのが現状である。学力は、「小学校学力経年調査」では全学年、全教科で大阪市平均を上回り、「全国学力・学習状況調査」等においても全国平均を上回った。また、運動面では、日常的に運動している子とそうでない子との差があることが課題であるが、全国体力・運動能力テストにおいて、調査対象学年は男子が大阪市・全国平均並み、女子は大阪市・全国を大きく上回る結果となった。家庭生活においては、中・高学年において早寝ができず、十分な睡眠時間が確保されていない子どもも多い。このような課題に対して、これまで、学習面においては、国語科・算数科・体育科で、交流活動に重点を置いた授業を研究実践してきた。これにより、子どもたちは、学び合う良さを実感しつつある。また、ピアサポート活動を取り入れた取り組みにより、友達を思いやる気持ちや自尊感情が育ってきた。あわせて、あいさつ運動や基本的な生活習慣確立のための取り組みも行い、成果が見えつつある。

この成果を踏まえ、本年度は以下の点に重点を置いた取り組みを進めていく。

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校・家庭・地域）の実現】

- ・「学校のきまり」を守り、自主的・自律的に行動できる態度を育てる。
- ・「あいさつ」をはじめとしたコミュニケーションが大事であることを理解させ、それによる自己有用感を育む。
- ・人権尊重の精神をはぐくみ、自己有用感を感じることでできる子どもを育てる。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

学力の向上

- ・国語科・算数科において交流活動を効果的に取り入れ、ともに学び合い高め合う良さを実感させる。また、学習することの充実感や達成感を味わわせるとともに、基礎・基本を明確にした教材研究を行い、基礎学力を定着させる。

健康や体力を保持増進する力の育成

- ・年間を通じて、基礎・基本を明確にした授業研究に取り組み、子どもたちが運動することの楽しさを味わい意欲的に運動することにより、体力の向上につなげるようにする。
- ・早寝早起き等の基本的な生活習慣の確立や、よい食習慣を身につけることにより、健康の保持増進を図る。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校・家庭・地域）の実現】

- ①令和3年度の学校アンケートにおける「きまりを守って、正しく行動している」の項目で「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」の割合を、平成29年度より向上させる。
- ②令和3年度の学校アンケートで「自分にはよいところがある」の項目で「そう思う」「どちらかというそう思う」を合わせた割合を平成29年度より向上させる。
- ③令和3年度の学校アンケートで「あいさつをしっかりとっている」の項目で、「そう思う」「どちらかというそう思う」を合わせた割合を平成29年度より向上させる。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ①令和3年度の全国学力・学習状況調査における「授業がよくわかる」の項目で、国語・算数とも「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」割合を、全国平均を上回るようにする。
- ②令和3年度の全国学力・学習状況調査における「国語・算数の勉強は好きだ」の項目で「当てはまる」「どちらかという当てはまる」割合が、全国平均を上回るようにする。
- ③令和3年度の学校アンケートで「日ごろ、運動をよくしている」の項目で「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」割合を、80%以上にする。
- ④令和3年度の学校アンケートの「食に関する興味関心」の項目で、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合を、80%以上に維持する。
- ⑤令和3年度の学校アンケートの「早ね・早起き」の項目で、「早ね・早起きの大切さ」で「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合の75%以上を維持する。

2 中期目標の達成に向けた 年度目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校・家庭・地域）の実現】

＜全市共通目標＞

- ①令和3年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて解消した割合を95%以上にする。
- ②令和3年度の小学校経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について「当てはまる（どちらかと言えば、当てはまる）」と答える児童の割合を80.8%以上にする。
- ③令和3年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。
- ④令和3年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童数の割合を前年度より減少させる。

＜学校独自目標＞

- ①令和3年度の学校アンケートで「自分にはよいところがある」の項目で「そう思う」「どちらかという」とそう思う」を合わせた割合を平成29年度より向上させる。（H29 76.2%）
- ②令和3年度の学校アンケートで「あいさつをしっかりとっている」の項目で、「そう思う」「どちらかという」とそう思う」を合わせた割合を平成29年度より向上させる。（H29 90.3%）

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

＜全市共通目標＞

- ① 令和3年度の小学校学力経年調査における標準化得点を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。
- ② 令和3年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント減少させる。
- ③ 令和3年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均を2割以上上回る児童を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント増加させる。
- ④ 令和3年度の小学校学力経年調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度より増加させる。（R1 4年 74.5% 5年 78.9% 6年 84.3%）
- ⑤ 体力向上に向けて、かけ足週間や、かけ足大会の取り組みを行い、令和3年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、20mシャトルランの記録を大阪市平均・全国平均を1ポイント以上上回るようにする。（※体力テスト中止の場合、かけあし週間後に調査該当学年で20mシャトルランを計測し、大阪市平均・全国平均のそれぞれ過去3年間の平均値と比較する。）

＜学校独自目標＞

- ① 令和3年度の学校アンケートの「食に関する興味関心」の項目で、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合を、80%以上で維持する。（昨年度 90.2%）
- ② 令和3年度の学校アンケートの「早ね・早起き」の項目で、「早ね・早起きの大切さ」で「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合の75%以上を維持する。（昨年度 81.9%）

3 本年度の自己評価結果の総括

最終評価時に記載

評価基準	A：目標を上回って達成した。	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校・家庭・地域）の実現】 ＜全市共通目標＞ ①令和3年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて解消した割合を95%以上にする。 ②令和3年度の小学校経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について「当てはまる（どちらかと言えば、当てはまる）」と答える児童の割合を80.8%以上にする。 ③令和3年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。 ④令和3年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童数の割合を前年度より減少させる。 ＜学校独自目標＞ ① 令和3年度の学校アンケートで「自分にはよいところがある」の項目で「そう思う」「どちらかというと思う」を合わせた割合を平成29年度より向上させる。（平成29年度 76.2%） ② 令和3年度の学校アンケートで「あいさつをしっかりとっている」の項目で、「そう思う」「どちらかというと思う」を合わせた割合を平成29年度より向上させる。（平成29年度 90.3%）	未 未 未 未 未

年度目標達成に向けた取り組み内容、取組の進捗状況を知る指標	進捗状況
取組内容①【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 学校で認知したいじめについては、100%解消に向けて取り組む。 指標 月1回の子どもサポート委員会、週1回の学年研修会を行い、全教職員で共通理解する。	B
取組内容②【施策2 道徳心・社会性の育成】 きまりを守り、すすんであいさつができる子どもを育てる。 指標 - 児童の「きまりを守って正しく行動している態度」を認める声かけを、月目標などを活用して個々に具体的に行い、学校朝会や学級で評価する。 - 生活の中のさまざまな場面で使われるあいさつについて意識づけや評価を行い、あいさつができるようになってきた児童の割合を増やす。 - 学期に1回あいさつ週間を設け、児童の意識の向上を図る。 - 家庭や地域の方々にも啓発を行う。（地域活動協議会・ありがとうの会・懇談会・小中連携・学年だより・校長講話など）	B
取組内容③【施策2 道徳心・社会性の育成】 人権尊重の精神をはぐくみ、自己有用感を感じることができる子どもを育てる。 指標 - 子どもたちの活動と自己有用感を結びつける声かけを行い、児童のいいところを共有する。 - 年間計画に基づいて道徳の時間を100%確保する。 - 地域のボランティアの方々との交流や社会見学、外国文化に触れる体験的な活動を工夫して実施する。 - ピアサポートの（学級・学年・異学年での）実践を学期に1回以上行う。	B

・ファミリー活動を充実させ、学期に1回以上のファミリー行事を行う。	
年度目標達成に向けた取組の進捗状況の結果と分析 【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】【施策2 道徳心・社会性の育成】	
① 子どもサポート委員会や学年研修会を定期的に行うことで、区役所の支援やSCのアドバイスを受けて、児童についての情報共有ができています。 ② 朝会指導での振り返りや評価を通して、月目標・週目標に対しての意識が高まっています。あいさつ週間も計画通り進められていることもあり、すすんで挨拶できる児童も増えてきているが、一方で挨拶に応えられない児童もいる。また、行事後に浮ついた空気感があり、「きまり」を守らずけがをする児童もみられたため、校内の規律については継続して指導する必要がある。 ③ ファミリー活動が実施できない中でも、6年生が1年生の給食支援をしたり、運動会後に異学年で手紙を送りあったりすることで、できる範囲で交流を深めることができています。また、ピアサポート活動によって自己有用感を高める取り組みを行っている。	
後期に向けての改善点 【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】【施策2 道徳心・社会性の育成】	
① 今後も子どもサポート委員会や学年研修会を継続して行い、児童理解に努める。 その際、「指導場面での困りごと」「友だちとのトラブル」「家庭での様子」などについても必要であれば積極的に共有していく。 ② 校内の規律については継続して指導し、挨拶についてもこれまで通り評価と振り返りを行うようにする。また、教職員が率先して挨拶する姿を見せることで、児童の意識の向上を図る。 実施回数を目標にしている指標については、担当が進捗状況を把握しておくようにする。 ③ 今後、地域との交流や体験活動も可能な範囲で増やしていく。また、自己有用感を高めるために、異学年との交流をさらに深めたり、児童の良い点を学年研修会で共有したりしていきたい。	

大阪市立嶋野小学校 令和 3 年度 運営に関する計画・自己評価（目的別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した。	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】 ＜ 全市共通目標 ＞ ① 令和 3 年度の小学校学力経年調査における標準化得点を同一の母集団で比較し、いずれの学年も平成 29 年度より向上させる。 ② 令和 3 年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均の 7 割に満たない児童を同一の母集団で比較し、いずれの学年も平成 29 年度より 1 ポイント減少させる。 ③ 令和 3 年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均を 2 割以上上回る児童を同一の母集団で比較し、いずれの学年も平成 29 年度より 1 ポイント増加させる。 ④ 令和 3 年度の小学校学力経年調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を平成 29 年度より増加させる。 ⑤ 体力向上に向けて、かけ足週間や、かけ足大会の取り組みを行い、令和 3 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、20m シャトルランの記録を大阪市平均・全国平均を 1 ポイント以上上回るようにする。（※体力テスト中止の場合、かけあし週間後に調査該当学年で 20m シャトルランを計測し、大阪市平均・全国平均のそれぞれ過去 3 年間の平均値と比較する。） ＜学校独自目標＞ ① 令和 3 年度の学校アンケートの「食に関する興味関心」の項目で、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合を、80%以上に維持する。（令和 2 年度 90.2%・令和元年度 89.4%・平成 30 年度 83.1%） ② 令和 3 年度の学校アンケートの「早ね・早起き」の項目で、「早ね・早起きの大切さ」で「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合を、75%以上に維持する。（令和 2 年度 81.9%・令和元年度 82.7%・平成 30 年度 76.9%）	未 未 未 未 未 未 未

年度目標達成に向けた取り組み内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗状況
取組内容①【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取り組み】 子どもたちが学びの充実感を味わえるように、年間指導計画の中で体験的な活動を効果的に位置づける。		B
指標 ・各学年、年間2回以上体験的な活動を行う。		
取組内容②【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取り組み】 図書室の環境整備や図書開放の時間の充実など、児童の読書数を増やすための取り組みをすすめる。		B
指標 ・図書開放を行う。 ・図書だよりを定期的に発行し、学級での図書指導に活用する。		
取組内容③【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取り組み】 ①学年間の系統性を確認し、学習課題を明確にする。②“主体的な学び”につながるような課題解決の方法等を教材研究する。③研修会を実施する。		B
指標 ・授業研究を年3回、研修会（メンター研修を含む）を定期的に実施する。 ・1人1授業の参観体制を整えて、定期的に実施する。		
年度目標達成に向けた取組の進捗状況の結果と分析		
【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取り組み】		
①感染対策のために制限され、行えない活動もあったが、少しずつできてきている。内容を精選したことで、学びの充実につながっている。		
②図書開放で貸し出し可能となったので、参加意欲が高まっている。城東図書館の活用、図書だよりの活用により、読書量が増えている。無人図書の利用者も多い。		
③国語科の研究を順調に進めている。一人一授業の実施は少なく、参観人数も少ない。研修会は、コロナによる制限で、なかなか実施できていない。		
後期に向けての改善点		
【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取り組み】		
①宣言解除により、今後計画的、積極的に体験活動を実施していく。		
②図書館開放の周知を徹底し、さらに参加者を増やしていく。学級文庫の充実を図ってほしい。参加者数、貸し出し数など数値で表していくことも必要。		
③一人一授業の計画的な実施。学年間で相談し、参観体制の充実。研修会の実施。		
取組内容④【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】 体育科の時間や休み時間に、子どもたちが運動することの楽しさを味わい意欲的に運動することにより、体力の向上につなげるようにする。		B
指標 ・体力をつけることが将来の健康維持につながることを理解させ、なかよしタイム等に外遊びをするように働きかける。 ・令和3年度の学校アンケートの「日ごろ、運動をよくしている」の項目で、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合を80%以上に維持する。		
取組内容⑤【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】 「元気アップ週間」を実施して、早寝・早起きの意識が高まるようにする。		B
指標 ・学期に一度、「元気アップ週間」を設定し、早く寝ることを意識できるようにする。 朝会での校長講話などは、引き続き取り組む。 ・「ほけんだより」に「元気アップ週間」の項目に関連する内容を学期に1回は掲載		

し、学級での指導に活用する。 ・児童が「ほけんだより」を読む機会を増やすために、各学級教室と保健室前に掲示する。また、学級配付時に、おたよりの内容についてもふれる。	
取組内容⑥【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】 すききらいせず食べる習慣が身につくようにはたらきかける。 指標 ・「きゅうしょくだより」や「きゅうしょくカレンダー」を活用し、給食指導を行う。（給食委員会の校内放送、教室での「きゅうしょくカレンダー」の音読など） ・食に関する指導の全体計画に沿って、栄養教諭による食の指導を各学年、年間2回以上行い、学級での栄養指導に活用する。 ・残食を減らすため、13時からの「もぐもぐタイム」を全校で取り組む。 ・学期に2回以上、行事献立などのときに、学級担任が授業用パソコンを使い、給食指導中に、伝統行事と食の関連などについて講話する。 ・児童が「きゅうしょくだより」を読む機会を増やすために、各学級教室とランチルーム前に掲示する。また、学級配付時に、おたよりの内容についてもふれる。	B
年度目標達成に向けた取組の進捗状況の結果と分析	
【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】	
【取り組み内容④体育】 ・学年や学級にて体育の授業や休み時間等で遊具を活用し体力向上するように日々声をかけた。 ・コロナの影響でみんな遊びができず難しい時期もあったが、落ち着いてからは多くのクラスが15分休みや昼休みを中心にみんな遊びを行い、多くの児童が外で遊び運動する機会が多くあった。 ・学年が上がるにつれてみんな遊び以外の時間では、よく外遊びする児童とそうでない児童の二極化・固定化してきているように感じる。 ・みんな遊びをする頻度を上げる（毎週決まった曜日に行う）ことで、外遊びする児童が多いように感じられる。 ・放送委員会の放送でなかよしタイムを働きかけていることでたくさんの児童が運動場で遊んでいる。 【取り組み内容⑤保健】 ・実施回数を目標にしている項目は予定通り進んでいる。 ・早寝・早起きするように日々声をかけることで意識が高まるようになってきた。 ・『学級だより』や『ほけんだより』などを活用し、家庭への啓発に力を入れてきた。 ・元気アップ週間で自分の目標を立てているにも関わらず、いざ取り組むと達成できないことが多い。特に『早く寝る』項目が未達成になりやすい。 ・今年度、長期休暇（GW・夏休み）あけに元気アップ週間を設定したことで学校生活のリズムを見直すことができ、生活リズムを取り戻すことができたのではないかと感じた。 ・『ほけんだより』に色をつけ、教室に掲示することで、目につきやすく、見やすいよう工夫されていて子どもたちも見ている場面があった。 【取り組み内容⑥給食】 ・『きゅうしょくだより』は学級で指導に活用している。 ・栄養教諭による食の指導や授業用パソコンを利用した食の指導等の実施回数を目標にしている項目は予定通り進んでいる。 ・給食委員会の校内放送をよく聞き、学級にて給食カレンダーの音読なども行ったことで給食指導が行えていると思う。	

- ・栄養教諭と連携し、食の指導を行ったことで食に関する意識が高まり、行事献立の時には授業用パソコンを利用した資料を給食指導中に映し、伝統行事と食の関連について理解を深めることができた。
- ・授業用パソコンを使った取り組みは目標を大きく上回り、食に関する指導については計画通り実施することができている。「Teams 月見」の時は Teams を使用した新たな取り組みもできている。
- ・授業用パソコンで旬やマナー・行事の指導の指導を行ったことはとても効果的であった。子どもたちからもそれぞれに反応を示し、特に「さんま」の食べ方は子どもたちにとってわかりやすいものになっていて食べ方を実践している児童が多かった。他にも、低学年の児童は「エプロンのたたみ方/食器の配置」の内容は学年で統一して指導しやすかったと思う。
- ・コロナ対策ということもあり、喫食開始時から『もぐもぐタイム』（黙食）をしている。

後期に向けての改善点

【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】

【取り組み内容④】

- ・子どもたちが運動することの楽しさを味わい意欲的に運動できるように、なかよしタイムの外遊びや体育で体力の向上に努めていく。
- ・学級遊び（みんなあそび）に加え、来年度には新学年になることを見据え、児童が考えた遊びで他学年と交流していくことができるように計画していく。
- ・今後、かけあし週間もあることで運動をする機会は増えてくるので今後も声かけを継続して行っていく。

【取り組み内容⑤】

- ・今後も『学級だより』や『ほけんだより』などで、家庭の協力を得ながら早寝・早起きの意識を高めていくようにする。
- ・早くに寝られない児童に共通していえることとして「スマホ」があげられるので、スマホの使い方を意識させるために保護者にも訴え意識を変えていけたらと思う。

⇒これを受けて、ほけんだより 12月号・1月号に掲載予定。

- ・次回も朝会等で校長先生から講話を実施してもらい、元気アップ週間前の「ほけんだより」を配付するときなどで各学級でも早寝・早起きの意識が高まるように指導を引き続き行う。

【取り組み内容⑥】

- ・『きゅうしょくだより』の配布時にテーマについて触れることや給食指導や授業用パソコンの資料を流す際に子どもたちがさらに興味をもつことができるような声をかけていく。
- ・実施回数を目標にしているところは引き続き実施していき、進捗状況を担当等が把握しておく。
- ・毎日の放送で、もぐもぐタイムを周知したり喫食開始時より黙食（コロナ対策として）を行ったりしているが、徹底は難しいところも見られるので各学級でも継続的に指導を行っていく。
- ・授業用パソコンでの講話の内容に関して、「季節のもの/旬のもの」「各行事」「マナー」についての献立のときは、子どもたちも興味を示していることもあることから今後も計画し、実施していく。